

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

「和らぎ」「歓び」

日付 平成 21年 3月 31日
特定非営利活動法人

評価機関名

ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

昨年度このホームを訪問した時、管理者から、平成17年に管理者が退職して、一人の管理者で両方のユニットを見ていたが、管理者の考え方や職員の思いに相違点があって、職員間で少しごたついた事を聞いた。昨年からデイサービスで5年経過した男性職員がホームに転属になり、その後管理者になり、又2つのユニットを2人の管理者で運営出来るようになったと今年の訪問時に紹介された。それで今後安定した運営が出来るようになったという事で、このホームを更に良くして行こうと、建設的な考えを聞いた。

今年度は初めての試みとして、2人の管理者が全職員一人ずつと20分間位の個人面接をして、職員の思いとか考え方、そして提案等しっかり聞いたそうだ。職員ミーティングでは聞けない意見や提案が聞けて、大変参考になったそうだ。この提案も運営に反映して行っているとの事であったが、次にユニットの目標の定め方を変えていくそうだ。普通、理念や計画・目標はトップダウンであったり、皆で相談して定める事が多いが、来年度初めに職員からのボトムアップによって目標を決めようとしているそうだ。もう一つは介護計画を作成する時も本人や家族に入って貰って、その人の介護計画をまとめていきたいという試みがあると聞いた。本当は本人や家族が自分の道程を決めるのだから、本人や家族が積極的に関わる事が一番良い事であるが、家族にしてみれば「お任せします」で終わってしまうのが一般的でもある。しかし他のホームでも実施しているが、本人がもっと歩けるようになりたいという要望があれば、歩くりハビリの方法として、廊下を1日5往復歩こうという目標を利用者と一緒に定め、その目標達成のモニタリングは利用者に表に記して貰い「自分の目標を自己管理する」という手法をとっているホームもある。こんな形で参加する事が出来たら、素晴らしい事だと思う。

このホームのしていこうとする3つのポイントを書かせて貰ったが、これは一般産業界では、目標管理、自己管理としてずっと前から現場の社員がしている事なので、介護の事業所でも是非成功させて貰いたいと期待しながら見守っていききたいと思う。

二人の管理者は、和気藹々の中で居心地が良いなあと思える雰囲気作りをしていきたい。その為には、明るく楽しく皆でお互いを補っていく事が必要だという。利用者同士でも、利用者と職員の関係でも、職員同士でも補い合う事は大変重要だと思った。それから尊厳という事がどんな事が実現していく。それはその人の存在感を明確にして、安心出来るホームの中で、その人らしさをどう発揮するかだと言っていた。

特に改善の余地があると思われる点

利用者と1対1になった場面でよくコミュニケーションをして、利用者の気持ちや思いをよく聞いてあげるようにしていると聞いた。利用者の思い出や輝いていた時の事もエピソードとして調べておき、話の盛り上がりを作るきっかけ作りを職員で共有しておいて貰いたい。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：母体法人の病院、老健施設、在宅介護支援事業、グループホーム等、全施設や事業所に共通の理念がある。それを各事業所で実施に反映する為の目標を定めている。</p> <p>2、全体的に見て…：法人の理念は「お客様の満足度の向上を、より良質なサービス提供を、優しさを持って、互いに尊厳を、喜びあふれる」と5つの心を示したものである。これを総合して“普通の暮らしを守る”をモットーにして、日々のケアの仕事に反映させている。職員は普段の仕事から色々な事を自ら学び取って、自分自身の質を高めて、資格取得をして、向上心のある人になって、出来るだけ長く勤めて貰い、利用者との馴染み深い関係でホームで過ごして貰いたいと願っている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：広大な敷地の中に、ゆったりした広い面積を持った2つのユニットのグループホームの建物がある。2つのユニットは違った雰囲気の状態に造られているが、6年間の歳月を経過すると、どちらのホームも完全に地に着いた落ち着きを見せている。</p> <p>2、全体的に見て…：建物は多目的ホールを中心にして、2つのユニットがウッドデッキや渡り廊下で繋がっている。多目的ホールを持っているのが特長で、両ユニットが合同で行う行事やボランティアが来訪してくれた時に使っており、家族が来訪すれば宿泊出来る部屋もある。2つのユニットは別々の玄関があり、一方は昔の長屋風のイメージで広い廊下が一直線を通っている。片方は純和風の昔の大きな屋敷というイメージで出来ている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	評価不能	
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせて入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援	評価不能	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ケアマネージメントの各項目について特に改善する事はない。一つ一つのケアに関して、職員との話し合いや目標設定等から出てきた事柄を参考にして改良していきたいと考えている。</p> <p>2、全体的に見て…：介護計画や記録類について、システムとしてきちりとした計画をして、日々のケアをしているが、もう少しアセスメントの所から、利用者のADLや精神面において、自立している機能と介助の必要な機能を細かく分割して、細分化された機能をしっかり分析して、日常のケアの業務で支援していく機能と、どの機能を良くしていくか、維持していくか、日常生活の状態が判断して、職員会議で出来るだけ人間としての基本的な機能に絞って、介護計画に掲げて実施していくケアに別けてマネージメントすると、これらのシステムでする仕事と業務としてする仕事が明確になり、両立していけると思う。一緒に改善していきましょう。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…：同一敷地にデイサービス事業所があり、両方の事業所は協働して地域の人達との交流もしており、両事業所同士の利用者の交流もしている。母体法人が広い範囲の地域での交流や情報の発信をしているが、これはホーム単独では出来ない。</p> <p>2、全体的に見て…：2人の管理者はよく相談しながらホームの運営をしていきたいと言ってくれた。今までの長い経験と新しい発想が上手く交り合っていけば良い。管理者の経験から「利用者を最期まで看れた満足感がある」と言い、それはお葬式に参列した時に感じるそうだ。利用者が長い間職員と一緒に生活し、ホームで最期に息を引き取った時は、恐らく家族が看取る時の感情とは又違うものだろうと想像する。尊厳の大切さ、その人の存在感等が、何気なく頭の中を過るのだと思う。</p>		